

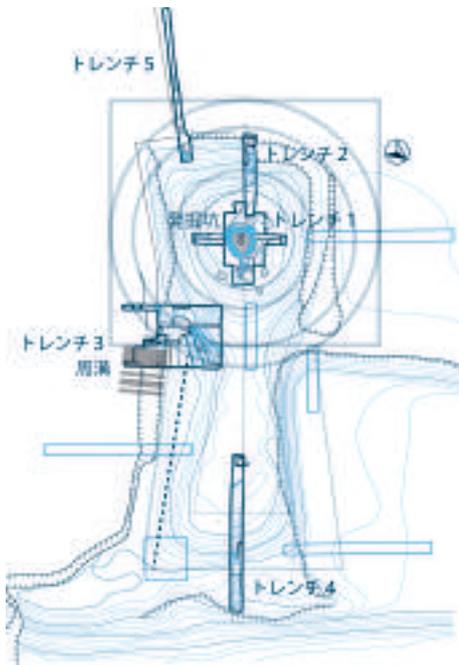


特集2

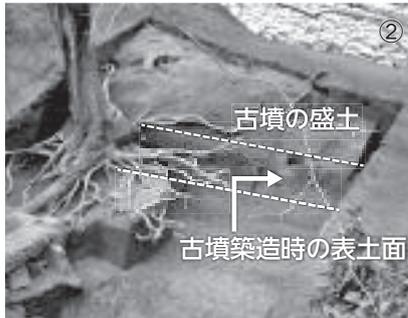
速報！安城の遺跡から

～平成29年度の発掘調査～

本市では、250カ所を超える遺跡が確認されています。埋蔵文化財センターでは、平成29年度に発掘調査6件、試掘調査28件を実施しました。今回はこの中から、2件の発掘調査成果を紹介します。



▲塚越古墳調査位置図



①昭和24年の発掘時に出土した、副葬品と見られる紡錘車形石製品等 ②塚越古墳の墳丘斜面(トレンチ3北東から) ③周溝内の埴輪・土器出土状況 ④円筒埴輪

塚越古墳(古井町)

塚越古墳は、三河を代表する桜井古墳群の古墳の一つです。昭和24年の発掘調査では、副葬品とみられる紡錘車形石製品(※)等(写真①)が発見されました。また、墳丘長41m(その後の調査で45m以上と修正)の前方後円墳と報告されています。

今回は、塚越古墳の墳形・墳丘規模等、古墳の基礎情報を得るための発掘調査を行いました。※糸を紡ぐために用いられた道具をかたどった石製品。

【古墳の形は？大きさは45m!!】

1980年代後半の前方後方墳研究の進展により、塚越古墳が前方後方墳である可能性も出てきました。

今回、調査区(トレンチ)を5カ所設定して掘ったところ、後世に人為的な改変を受けたと思われる形跡があり、形の確定とはなりません。また、トレンチ3から周溝とみられる直線的な落ち込みが確認されました。

なお、墳丘長は以前の調査で修正された時と同じく、約45mであることが確認できました。

【築造のカギ】

古墳の造り方を調べていく中でカギとなる土層は、黒色土です。これは古墳築造時の表土(旧表土)面(写真②)にあたり、昭和24年の発掘坑の壁を見ると、この旧表土上1.0～1.2

mごとに3段階で墳丘に盛土をしていました。

【埋葬施設は木棺直葬か?】

今回、後円部墳頂のトレンチ1で昭和24年の発掘坑を再発掘し、「空洞に土をうづめた形跡」と報告された形跡を確認しました。また、石材やまとまった粘土のかたまりが出土したという記述や痕跡がなかったことから、埋葬施設は木棺直葬(※)とみられます。なお、発掘坑南西から鉄剣あるいは鉄やり1点が出土しています。

※木の棺を直接埋めた埋葬施設。

【安城初の円筒埴輪を発見!】

周溝とみられる埋土(写真③)から円筒埴輪の破片(写真④)が比較的まとまって出土しました。これまで岡崎市の於新造古墳や和志山古墳・甲山1号墳から出土した、三河で最古とみられてきた円筒埴輪によく似た形をしており、ほぼ同時期に作られたものと考えられます。

【今回の調査から】

塚越古墳は、発見された紡錘車形石製品等によって、出土遺物が少ない桜井古墳群を古墳時代前期古墳群と評価する基準となっていた古墳です。今回の調査で三河における埴輪導入期の円筒埴輪が出土したことから、築造時期が4世紀中頃から終わり頃という従来の年代観を裏付ける貴重な成果が得られました。



本證寺境内(野寺町)

本證寺は鎌倉時代後期(13世紀末頃)に、慶円きやうえんによって開かれた浄土真宗の寺院で、平成27年3月には国史跡に指定されました。これまでに周辺の発掘調査を16回ほど行ってきましたが、今後、史跡をどのように活用・復元していくかを考えるため、寺の本堂を取り囲んでいる南内堀と石垣の調査をしました。

【内堀の深さを調べてみる】

本證寺の内堀は本堂を囲む南内堀と庫裏くらを囲む北内堀が存在しています。平成17年度には庫裏の北側にある内堀とその両側にある内土塁はなちうの調査を行い、江戸時代末期に造られた版築土塁はんちゆう(※)や、現在の地表面から深さ約2.4mの内堀があったことが明らかとなりました。

今回の調査は、南内堀の東・南・西側に幅2mの調査区を3カ所設定し、それぞれの内堀の形状や掘削時期を解明するために行いました。その結果、現在の地表面からの深さは、東側で約2.5m、南側で約3m(写真⑤)、西側で約1.2mであることがわかりました。

※土を一層ごとに固めながら積み上げて作った土塁。

【本堂の裏には池があった?】

西側調査区では、他の内堀と比べ浅くて幅の広いU字形の内堀が確認されました。さらに地山(※)面は粗



⑦山門前の石垣と内堀



⑥本堂裏の内堀



⑤南側内堀の深さ



▲本證寺境内調査位置図

い砂(サバ土)が水によって灰色に変色したようで、その上に水が流れていたような細かい粒子の砂が観察されました(写真⑥)。平成27年度に、西側の水田で外堀周辺の調査を行った際に確認された池または沼地と推定される範囲から遠くない場所にあることから、本堂の裏側は堀として築造されたのではなく、元々池であった場所をそのまま堀として利用したと考えられます。

【石垣からわかったこと】

山門前の東側調査区では、内堀のほかに石垣についても調査を行いました。その結果、石垣は地山上に桐木を敷き、その上に長方形の石材を8段積み上げていました(写真⑦)。しかし、土塀による重さによって、石垣の中、下段にゆがみが見られます。ところどころ積み直している部分も確認されました。石材は花崗岩かこうがんを用いています。

【今回の調査から】

これまで真相がわからなかった南内堀の深さや形状、出土遺物から江戸時代末期には堀が埋まっていたことがわかりました。しかし、実際の堀の築造時期や幅、石垣の建造時期は今回の調査では明らかにはなりません。継続して行われる本證寺境内の調査により、詳細をお伝えしていきたいと思えます。

◆遺跡の調査にご協力を

本市では、開発でやむを得ず破壊される遺跡を事前に発掘調査しています。住宅建設等の開発工事を行う計画があれば、文化振興課までご相談ください。

◆調査結果の展示

今回紹介したものは、埋蔵文化財センターで展示しています。調査や展示品を紹介するパンフレットも無料で配布していますので、ぜひご覧ください。

◎展示日時

(火) 午前9時〜午後5時
(年末年始を除く)
※月曜日が祝日の場合は開館。

